

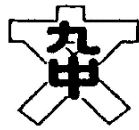
# 文京区立第九中学校 校長室通信

## 「文京九中 ここにあり」



平成30年度 第9号

平成31年3月25日発行



文京区立第九中学校 校長 小 椋 孝

■ TEL 03-3821-7178 ■ FAX 03-5685-4955

■ HP <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/daikyu-jh/>

### 平成30年度 締めくくりのときを迎えて

#### 今年度1年間のご理解、ご協力に心から感謝を申し上げます

20日（水）に卒業式を挙行し、3年生109名が立派に第九中学校を巣立っていきました。先輩方の晴れの姿を胸に、1・2年生はそれぞれ最高学年、中堅学年として九中の伝統を引き継ぎ、さらに発展させていこうという思いを新たにしましたことでしょう。卒業式の式辞を裏面に掲載しましたので、ご一読いただけましたら幸甚に存じます。

平成30年度も、生徒の皆さんのひたむきな努力に加え、保護者、地域の皆様に全面的なご理解、ご協力を賜り、おかげさまで充実した教育活動を展開することができました。心から感謝を申し上げます。

4月からは新入生115名（通常の学級108名、特別支援学級7名）を迎え、新年度がスタートします。教職員一同、生徒たちの3年間の学びと育ちに責任をもって全力を尽くしてまいりますので、今後とも第九中学校をよろしくお願い申し上げます。



本校校庭の桜

### 九中の特色！「新聞への意見文」投稿 ～先週末に掲載されました～

※ 東京新聞「ミラー」 平成31年3月22日（金）掲載

#### 学校でスマホ指導必要

中学生 遠藤 涼（14） [2年1組]

大阪府が2月、公立小中学校でスマートフォンや携帯電話の持ち込みを許可する方針を発表した。私は賛成だが、その前にやるべきことがある。それは学校でスマホについての授業をすることだ。

内閣府の調査によると、小中学生の半数以上がスマホを持っている。そこで心配になるのは「子どもたちがしっかりと正しい判断ができるのか」ということだ。膨大な情報の中から必要な情報だけを見られるようにして、子どもたちの防犯対策のためにもスマホ教育を取り入れるべきだ。

私は小学6年生のころ、会員制交流サイト（SNS）についての講習を受けたことがある。講習を通して分かったことは、中学生を中心にSNSで子どもたちのいじめや犯罪が増えているということだ。私が今、中学生の立場に立って考えてみると、その原因は学校がスマホについての指導を十分にしていないためだと思う。

親も「学校でスマートフォンに関する指導をしてほしい」と考えている人は多いだろう。インターネットの使い方の問題だけではなく、歩きスマホやアプリへの課金についての問題も同時に学べる。スマホの教育は今の時代に必要な教育だと思う。

スマホ持ち込み許可の問題は正直なところ、持ち込むか持ち込まないかが問題なのではない。まずは子どもたちが正しいスマホの使い方を知り、自ら正しい判断をすることができるようになることが大切だ。

スマホをめぐるトラブルを防ぐためにも、学校でスマホの教育を取り入れることが一番考えるべきことだと思う。

## 文京区立第九中学校 平成30年度第72回卒業式 校長式辞

暖かな日差しが降りそそぎ、春の足音が間近に迫っていることが感じられます。

来る4月1日には、平成に続く新しい元号が発表され、春、そして新しい時代を迎えるという期待感が高まるこの佳き日に、文京区立第九中学校第72回卒業式を挙行できることを、心からうれしく思います。

本校では、「何事にもひたむきに取り組む九中生」というモットーのもと、生徒と教職員が一丸となって「活力みなぎる学校づくり」、「かけがえのない仲間づくり」、そして「一人一人の個性を尊重できる学校づくり」の実現に邁進してきました。生徒の皆さんの努力と団結に加え、多くの方々に応援していただいたお陰で、とても充実した学校生活が実現できていると感じます。日頃から多大なるご理解とご協力をいただいているPTA役員の方をはじめとした保護者の皆様、また、いつも温かな目で見守っていただいている地域の皆様、そして様々な形でご支援をいただいている文京区並びに文京区教育委員会の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

さて、3年生の皆さん、改めましてご卒業おめでとうございます。先ほど、皆さん一人一人に手渡した卒業証書は、義務教育九年間の学びと育ちの証です。これからの社会で必要となる「人とよりよく関わり合いながら生きていく」ために必要な力は、この3年間でしっかりと皆さんに培われたでしょうか。皆さんの中には、「協力」や「信頼」、「団結」といった言葉で代表される「仲間と一緒にだったからこそ身に付けることができる力」が数多くあるはずです。日々の学校生活に加え、数々の行事を通じて皆さん自身の手で仲間と積み上げてきたものは、何物にも代えがたい財産だと思います。

今年の夏、日本でラグビーのワールドカップが開催されます。ラグビーと言えば、「ワン・フォー・オール オール・フォー・ワン」という言葉が有名です。これは、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という意味にとらえられていますが、私は関係者の方からもう一つの意味を覚えていただいたことがあります。それは、「一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」というものです。ここでいう目的とは、ラグビーではトライを指しますが、これを皆さんの学校生活に置き換えても意味が通じます。一つの目的、つまり「ゴールに向かって全員がしっかりと役割を果たすことが重要だ」ということなのです。3年生の学年通信のタイトルには、ラグビーの「スクラム・タックル・トライ」が使われています。最初の「スクラム」では、個々の選手の力をいかに集団として一つにまとめ上げられるか、連帯感や結束力、規律性などが求められます。次の「タックル」では、相手に立ち向かう勇氣と決断力、相手を止めるための工夫や想像力、それに危険を伴うことから正しくルールを守る公平性が求められます。そして、最後の「トライ」。ラグビーでは、ルールでボールを前に投げることはできません。ゴールを目指してチーム全員の手でボールをつなぎ、一步一步前進し、仲間全員の努力の結果として得られるものが「トライ」なのです。もちろん、努力しても起きてしまうミスや、不用意なことからペナルティを受けてしまうこともあるでしょう。しかし皆さんは、この学年通信のタイトルに込められた願いのとおり、一人一人が役割を果たそうと一生懸命努力し、全員の手で一つ一つついでに積み上げながら、困難を乗り越え、集団としての力を高めてきました。

特に今年度は、常に「平成最後」という冠がつく中で、皆さんは「九中最後」ということを重ね合わせ、常に最高学年として先頭に立ち、完全燃焼を目指して頑張ってくれました。そして、その姿を受けて、上を支え、下を助けようと努力する2年生、そして先輩たちの姿に少しでも近づこうとする1年生をまとめ上げ、自分たちの学校を自らの手で良くしていこうという実践を数多く見せてくれました。この3年生が先頭に立って学校をけん引し、築き上げた九中ならではの伝統は、何事にも代えがたい素晴らしいものであると私は信じています。今年もこの素晴らしい伝統を引き継ぎ、さらに大きく発展させてくれた3年生の皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。

九中の3年間で「かけがえのない仲間」と共に得たものは、皆さんの一生の財産となるものです。皆さんが学年の先生方とともに、この3年間で培ってきた二つの意味の「ワン・フォー・オール オール・フォー・ワン」をこれからも大切に、未来へと羽ばたいていってください。

正直なところ、皆さんとの別れには寂しさを感じますが、皆さんが将来に向かって巣立っていく嬉しさと期待感、これを大きく上回るものです。本校自慢の3年生の旅立ちに際し、今後ともこのかけがえのない仲間とともに、将来に向かって常に学ぶ姿勢と豊かな心、健やかな体を大切に、自己実現、そして仲間の幸せを願ってたくましく生きていくこと、また将来、自分が生まれ育った文京区、東京都、さらには日本を支える立派な人材として大きく成長すること心から祈念し、式辞といたします。